

生活単元学習指導案

日 時： 平成〇〇年〇〇月〇〇日（火）
2校時（9：50～10：30）
対 象： 中学部「製作」グループ
男子 4人 女子 6人 計 10人
場 所： 中学部 2 年 1 組 教室
指導者：（T1）（T2）（T3）
（T4）（T5）

1 単元名 学習発表会をしよう

2 単元について

(1) 単元設定の理由

ア 単元の価値

学習発表会は日ごろの学習の成果を劇や合奏、身体表現などにより総合的に発表することで、自分の学習活動への取組を振り返るとともに、多くの友達や保護者の前で自己表現する楽しさや友達と一緒に活動する充実感を体験できる意義のある場である。しかも、発表までの過程で、友達と協力したり、自分の役割を果たしたりする活動は生徒一人一人の満足感と喜びのみならず、集団参加能力の育成や向上にも寄与できるものである。

ところで、今年度の学習発表会の内容は、万博をイメージした劇という発表形式の中で、「音楽」、「運動」、「文化」、「製作」の4グループごとに取り組んだ内容を披露し、最後に全員での合唱という枠組みにした。単元は、学部全体で学習する内容（学習発表会の期日や内容・学習計画に話合いや学習発表会予行練習の反省）、グループごとに取り組む内容（発表内容の検討・練習の実際、劇で使用する小道具作り）、各学級で取り組む内容（ポスターの製作・反省とまとめ）という学習形態と学習活動で構成されている。このことから、それぞれが取り組みたい内容や役割を自分自身で決める学習による自己決定力や自己判断力の向上が期待できる。また、自分の役割を最後まで果たそうとする責任感や友達と協力する態度の育成を図ることができる。さらに、劇の練習では、せりふを言ったり、動作化したりすることにより自己表現力を向上させることができ、「友達とのかかわり」や「言葉による自己表現力の向上」といった基礎課題が設定されている生徒が多い本グループでは効果的な学習活動になる。

イ 指導観

観点	指 導 観
人のつながり	指導者が本グループの生徒の基礎課題と基礎課題に関する学習活動を把握するために、単元の分析及び指導計画に沿った一人一人の学習活動の設定を共同で行うようにしたい。また、自己表現を基礎課題としている生徒が多いことから、自分の考えを発表したり、せりふを言ったりする活動を数多く体験できるようにしたい。また、事前に発表内容をメモしたり、小集団の中で発表したりするとともに、よくできたことをその都度、賞賛していくことで、一人一人が自信をもって自己表出できるようにしていく。
時のつながり	昨年度の学習発表会のVTR等を見ながら、これまでの学習発表会に関することを思い出すことができるようにするとともに、写真カード等を用いた学習計画表を作成する中で、見通しをもって学習に取り組むことができるようにしていく。また、集団の中で自己表現や協力して行う活動が将来の生活において自分の意志を明確に伝えることや共同作業における協調性及び責任感の育成につながることを意識付けられるようにしたい。
場のつながり	学習発表会の会場である体育館のステージを意識できるように、活動場所を工夫し、カラーテープを床にはったり、立ち位置に同じ印をつけたりしていく。また、せりふや動きを思い出すヒントになるカードや小道具等を用意することで、一人一人が自分で考えながら劇を演じることができるようにしていく。また、自宅で練習できる自己表現の内容については過程にも協力を依頼し、上達や習熟の過程を共に共有できるようにしたい。

このような学習を通して、身体表現する楽しさを味わうとともに集団で活動する喜びを経験することにより、集団参加能力と自己表現能力の向上を図り、主体的な生活が送れるようにしたい。

(2) 生徒の実態及び留意点

本グループは、知的 I 課程 4 人、肢体 B 課程 1 人、肢体 D 課程 3 人であるが、ここでは以下の 3 人について述べる。

生徒 実態	A	B	C
	肢体 B 課程	知的 I 課程	肢体 D 課程
単 元 に 関 する 実 態	- 絵をかいたり、折り紙を折ったりするなどの細かい作業が得意である。 - 決められた係の仕事や役割を理解し取り組めるが、友達に言葉掛けをして一緒に活動することは少ない。 - 落ち着いて学習活動に参加することができ、特に興味のある活動には積極的に取り組むことができる。	- 自分一人で絵をかいたり、工作することが好きである。 - 決められた係の仕事はできるが、友達に言葉を掛けて一緒に行動することは少ない。 - 興味のある活動には意欲的に参加するが、周囲に気をとられ、集中力がとぎれることがある。	- 紙をちぎる、積み木を積み上げる等の活動が好きである。 - 合同学習では楽しい活動を期待し、手をたいて喜ぶ様子が見られる。 - 興味のある活動では笑顔や発声が多く自分から動こうとすることがある。
人・ 時・ 場 の 観 点	人：特定の友達との活動はできるが、自分から積極的に友達とかかわろうとする場面は少ない。 時：休み時間等、折り紙をすることがあり、製作活動に対して日頃から意欲的である。活動への見通しも持つことができる。 場：集団が大きくなると、周囲の人たちとのかかわりも消極的になり、自分一人で活動しようとする。	人：一人で絵を描いたりすることを好み、特定の友達には声をかけたりかわりを持とうとしたりする。 時：学習発表会の経験はあるが製作発表の経験はない。活動への見通しはある程度持てる。 場：教師に指示されると人前で発表することはできる。	人：身近な大人へはかかわろうとすることがあるが、子どもに対しては自分からかかわろうとすることは少ない。 時：興味のある活動と少ない活動では取り組む意欲の違いが見られるが、各活動への気持ちの切り換えはある程度スムーズにできる。 場：好きな教材には笑顔で近づく様子が見られる。
基 礎 課 題 と の 関 連	① 教科学習や読書などを通して、情緒豊かな表現ができるようになる。 ② 自分でできることと、できないことの区別をつけ、何ができるのか周囲の人たちに要求できるようになる。(○) ③ 様々な学習を通して、これまで以上に手指の動きの向上を図る。(○) ④ 相手の気持ちや立場を考慮しながら話を聞くことができるようになる。(◎) ⑤ 楽しみから興味をみつけ、仲間を増やしていくことができる。(◎) ⑥ 様々な職業を知り、将来への興味・関心を育てる。(○)	① 簡単な漢字を交えた文を書いたり、読んだりする。 ② 具体物を使わずに、1 位数同士の加法減法が正確にできる。 ③ マナーに気を付けて食事したり、天候やその日の活動に合わせて衣服の調整をしたりできる。(○) ④ 自分の考えを生かして製作活動に取り組んだり、進んで運動しようとする態度を身に付けたりする。(◎) ⑤ 自分で考えて丁寧な言葉を使って話したり、相手の話を最後まで聞いたりする。(◎) ⑥ 様々な活動を通して簡単なルールを理解したり、役割分担をしたりして楽しむことができる。(◎)	① 簡単な指示や要求に応じることができる。(◎) ② 睡眠と覚醒の時間を明確にし、生活リズムを整えることができる。朝、昼、夜の区別をつけることができる。 ③ 排尿の成功を心地よいと感じ、定時まで我慢しようとすることができる。 ④ 歩行能力を向上させることができる。(○) ⑤ 教師や友達とかかわることを楽しむことができる。(◎) ⑥ いろいろな物に触れ、楽しく活動することができる。(◎)

※ () は、◎：特に関連のある課題 ○：関連のある課題

生徒	A	B	C
実態	肢体B 課程	知的 I 課程	肢体D 課程
指導上の留意点	時：事前に文章や絵をつかって発表する内容を決めておき、繰り返し練習することで、自分の発表に自信を持つことができるようにする。 場：予め全体の学習内容や学習場所を予告することで、見通しを持って学習に臨むことができるようにする。 人：友達のよさを具体的に考えられるように観点を例示し、自然と気づきやすいようにする。	時：自己の考えをまとめるために時間が少し必要なことから、学習内容を事前に予告したり、発表するまでの時間を設定したりする。 人：言葉遣いに気をつけて、どのように発表したり、考えをまとめたりしたらよいかを理解できるような言葉掛けをする。 場：各活動に楽しい雰囲気に参加できるように場の設定や言葉掛け等に配慮する。	場：各活動に楽しい雰囲気に参加できるように場の設定や言葉掛け等に配慮する。 時：体調を崩しやすいため、表情や動き等の様子観察を行い、状態に合わせて活動に参加できるようにする。 人：友達を意識できるように各学習場面ではかかわる時間を多く持てるようにする。

3 目 標

○ 全体目標

- ・ 自分の得意なことや好きなことをいかし、のびのびと活動に取り組むことができるとともに、自分のよさに自信をもち自己表現する喜びを味わうことができる。
- ・ 学習発表会に向けての様々な活動の中で、友達のよさを認め合ったり、互いに協力したりして、一つの劇を作り上げ発表することを通して、友達と一緒に活動する楽しさを味わうことができる。

○ 個人目標

生徒	A	B	C
個人目標	・ 学習発表会に向けての様々な活動に、自ら進んで取り組むことができる。 ・ 友達と一緒に協力したり励まし合ったりすることができる。	・ 積極的に練習に参加し、自分の考えを生かして、すすんで活動するようにする。 ・ 言葉遣いに気をつけながら活動し、友達と協力して作品を作り上げるようにする。	・ 様々な活動を通して、生活経験や興味・関心の幅を広げることができる。 ・ 友達や教師と一緒に活動しながら人とかかわりを楽しむことができる。

4 指導計画（全30時間）

次	形態	主な学習活動	指導上の留意点	個別の学習活動及び支援の手だて		
				A	B	C
一 (6時間)	全体	1 学習発表会について知る。 (1) 昨年の発表会を振り返る。 (ビデオ視聴) (2) 今年の発表会について調べる。 ・期日 ・発表内容 ・学習計画 (3) 目標を考える。 (4) グループ分けをする。	・ 昨年のビデオを視聴し、昨年の発表会を振り返るとともに、今年の発表会について知り、これからの練習や本番に向けてみんなで協力して成功させようとする意欲を高めていく。 ・ 各自、目標をもって練習等に取り組むことができるようにする。	時：VTR視聴で昨年の様子を想起し、今年の発表会に対する意欲を高める。(⑤) → VTRを注目するように言葉掛けをする。 場：期日、学習計画等を考え、発表する。(⑤) → カレンダーや学習計画表等を提示することで、見通しを持って学習できるようにする。 人：目標としてふさわしい内容を自分で考え、発表する。(⑤) → 発表会の内容や準備に関する活動から頑張る内容を導くようにする。	時：昨年のVTRや今年の学習発表会の期日や学習計画の発表などをしっかり見たり聞いたりすることができるようにする。(⑤) → 発表者やVTRを注目するように言葉掛けをする。 人：自分の目標を丁寧に大きな声で発表したり、友達の発表を静かに聞くことができるようにする。(⑤) → 言葉遣いに気をつけて発表するように言葉掛けをする。	人：教師や友達と目を合わせたり、自分から手を伸ばす等、周囲の人とかかわろうとしたりする。(⑤) → VTR視聴では、出てくる人や演技の様子を見ながら話し掛けるようにする。 場：期日や学習計画等、発表会についての話を聞く。(⑥) → 発表会までの日数を日めくりカレンダーにしたり、発表会の様子が分かるようなカード等を準備したりして、発表会への興味を高めるようにする。
二 (12時間)	グループ	2 場面作りをする。 (1) 得意なことや挑戦してみたいことを考えて練習する。	・ お互いに得意なことや挑戦してみたいこと等について発表し、劇の中でみんなが精いっぱい自己表現できるような内容を考え、生徒が意欲的に活動できるようにする。	人：友達の発表の良い点や改善点を自分の言葉で伝えることができる。(④) → 本人の考えをまとめる時間と発表までの時間を設定し、発表した内容が他の生徒にも理解できるように補足説明をする。 時：折り紙等、得意なこと、頑張ってみたいことを自分で考え、自信を持って大きな声で発表することができる。(⑤) →事前に文章や絵をつかって発表する内容を決めておき、繰り返し練習することで、発表に自信をもつことができるようにする。 場：学習活動に友達と楽しく参加する。(⑤) → 応援グッズ等を準備する。	人：自分の得意なことや好きなことを丁寧に大きな声で発表したり、友達の発表を静かに聞くことができるようにする。(⑤) → 言葉遣いに気をつけて発表するように言葉掛けをする。 時：描画や工作等得意なことをスムーズに友達の前で発表できるように練習する。(⑥) → 学習内容を事前に予告したり、発表するまでの時間を設定したりする。 場：学習に集中して友達と楽しく参加する。(⑥) → 応援グッズ等を準備する。	場：積み木や紙ちぎり等、得意なことを教師と一緒に発表する。(①) → 事前に流れが分かるように動きの練習をし、簡単な指示で発表ができるようにする。 人：友達が発表している様子を見ながら表情や動きで様々な気持ちを表現する。(⑤) → 友達の様子に興味を持つことができるように言葉掛けをする。 時：学習に集中して参加し、楽しいと感ずることが出来る。(⑥) → 興味・関心の幅を広げられるように各活動には教師と一緒に楽しい雰囲気に参加できるように配慮する。
		(2) 得意なことなどを発表する。(本時)				
		(3) 配役や係を決める。				
三 (9時間)	グループ・全体	3 グループ練習をする。 (1) 場面練習をする。 ・ せりふ等を覚える。 (2) 小道具・大道具作りをする。	・ グループ内で少しずつ工夫、改善しながら練習することで、成功させようという意欲やグループの一体感を高めていく。 ・ 必要な小道具等をみんなで分担、協力して作っていく。	人：友だちとのかかわりを通して、自ら積極的に周囲とかかわったり、互いに協力して達成する喜びを味わったりする。(⑤) → 活動する時、友達と共同製作できる場面を増やす。 場：本番で使う道具を丁寧に製作する。(③) → 製作の工程を細かく示し、ゆっくり焦らずにできるように言葉掛けをする。	人：友達と協力しながら自分の役割を果たす。(⑥) → お互いにできたことを賞賛したり声を掛けたりするように言葉掛けをする。 場：本番で使う道具を丁寧に製作する。(④) → 製作の工程を示し、丁寧にを行うように言葉掛けをする。	時：自分の役割の動きをする。(①) → 模範を見せながら動きを促すような声かけをし、簡単な指示で動くことができるようにする。 場：教師と一緒にいろいろな道具の材料を触ったり、友達の作る様子を見たりする。(⑥) → 興味・関心の幅を広げられるように各活動に楽しい雰囲気に参加できるように配慮する。
		4 全体練習をする。 (1) 舞台練習をする。 (2) 練習の反省をする。 (3) 予行練習をする。 ○ 学習発表会に参加する。学校行事(4)				
四 (3時間)	全体・学級	5 学習発表会の反省をする。 (1) ビデオを視聴する。 (2) 反省をまとめる。	・ VTRを視聴し、本番やこれまでの練習を通して頑張ってきたこと等をお互いに発表できるようにする。	人：VTRを視聴し自分の反省を分かりやすく発表する。(④) → VTRを視聴する時、反省をまとめる観点を説明するとともに考えをまとめる時間を設定する。	人：VTRを視聴し自分の反省を丁寧な言葉遣いで分かりやすく発表する。(⑤) → 事前に学習内容を予告し、自分の発表内容をまとめる時間を設定する。	人：教師や友達と目を合わせたり、自分からかわろうとしたりする。(⑤) → VTR視聴では、出てくる人や演技の様子を見ながら話し掛けるようにする。

5 本時（8／30）

(1) 目標

○ 全体目標

- ・ グループの友達の前で自信をもって自分の得意なことや好きなことを発表することができる。
- ・ 友達の発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。

○ 個人目標

生徒	A	B	C
個人目標	・ 得意なこと、頑張ってみたいことを自分で考え、決定し、自信を持って大きな声で発表することができる。 ・ 友達の発表の様子をしっかりと見たり、賞賛し合ったりすることができる。	・ 友達の前で丁寧な言葉遣いで自分の好きなことを発表することができる。 ・ 友達の発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。	・ 教師と一緒に好きなこと得意なことを発表することができる。 ・ 友達の発表の様子を見ながら、楽しく学習に参加することができる。

(2) 指導に当たって

前時は、グループで一人一人が得意なことなどを発表内容にまとめていくことを学習し、発表会に対する見通しも少しずつ形成されつつある。

そこで、学習発表会への意欲をさらに高め、グループの目的意識を高めることができるようにグループ内での発表会を設定した。内容は一人一人の得意なことの発表と発表する友達の応援である。生徒の中には人前での発表が苦手な者もいることから、このような小集団での活動から始めて、徐々に大きな集団で発表することで抵抗感を少なくしていきたい。

なお、本時は以下に配慮して学習を展開していきたい。

観 点	留 意 事 項
人のつながり	本グループは製作、作品発表を行う。その目的を意識付けるために生徒一人一人に得意なことや好きな内容をみんなの前で発表してもらうようにする。他の生徒はその発表の様子を応援することで生徒同士が共に協力しようとする意識も高めていきたい。
時のつながり	本時の位置付けが明確になるように、スケジュール表を教室に掲示するとともに、本時の学習の過程に見通しをもつことができるように、学習の目的と流れの説明を行いたい。学習の終了にもスケジュール表等を使い、次時の学習の内容が理解できるようにしたい。
場のつながり	生徒が緊張しないで発表するために楽しい雰囲気になるように工夫したい。進行は教師（T1）が行い、場を盛り上げるようにするとともに、必要に応じてBGMを流し緊張を少しでも軽減させるようにしたい。また、発表する生徒がよく見えるように、他の生徒はできるだけ正面に座るようにし、発表が終わったら大きな拍手をすることを事前の約束事としても話したい。

(3) 本時の実際

過 程	主な学習活動	個 別 の 支 援			備 考
		A	B	C	
導 入 (5分)	1 あいさつをする。 2 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を知る。 ○ 自分の得意なことや好きなことを発表しよう。 ○ 友達の発表をしっかり聞いて応援しよう。	時：折り紙等、自分の得意なこと、頑張っていたことを事前に文章や絵をつかって表現し、少人数の前で繰り返し練習することで、大勢の前でも自信を持って大きな声で発表することができるようにする。(⑤)	時：学習内容カードを提示して、学習の流れが理解できるようにする。 人：友達と一緒に学習内容を読むことで、自分の声の大きさを意識し大きな声で読むことができるように言葉掛けをする。(⑤)	人：教師や友達の存在を意識しながら楽しく活動に参加できるような言葉掛けをする。 時：環境の変化に落ち着けるように配慮する。また一緒にあいさつをすることで、学習の始まりを感じることができるようになる。 場：集中して学習に参加できるよう気持ちを盛り上げるような言葉掛けをする。(⑤)	スケジュール表 目当てカード
	3 グループ発表会をする。 (1) 発表会の準備をする。 ・ 発表の順番を確認する。 (2) 自分の発表と友達の応援をする。 ・ 自分の発表をする。 ・ 友達の発表でよいところを発表する。 ・ 発表する人を応援する。	人：友達が発表する際、発表の内容だけでなく、発表の仕方や発表する時の表情、視線、身振り、手振り等を見ることで、相手の気持ちや立場を考慮しながら話を聞くことができるようにする。(④) 時：学習場面で、自分の発表に自信がなかったり相手の質問の意図が分からなかったりしたときは、黙ってしまうことがあるため、予め学習内容を予告することで、見通しをもって学習に臨めるようにする。(⑤)	場：応援グッズを使うことで、友達の発表を賞賛したり盛り上げたりして楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。(⑥) 人：友達の発表を聞いて、大きな声で、丁寧な言葉遣いにつけて発表するように言葉掛けを行う。また、発表後はできたことを賞賛するようにする。(⑤) 時：予め学習内容を予告したり自分の発表内容を確認することで、見通しを持って学習に臨めるようにする。(④)	場：発表内容の中に興味・関心のある素材の物や動き等を取り入れ、楽しく発表できるようにする。(⑥) 時：事前に動きの練習をすることで、簡単な指示で発表できるようにする。また達成感が味わえるように発表後は賞賛するようにする。(①) 人：友達の様子に興味を持ち、発表を集中して見ることができるよう言葉掛けをする。(⑤)	発表内容カード 応援グッズ
終 末 (5分)	4 本時のまとめをする。 (1) 今日の学習の反省をする。 (2) 次時の学習内容を知る。 5 あいさつをする。	場：全員の発表した内容を、黒板に文字や絵で表すことで、本時の学習内容を振り返ることができるようにする。	時：学習内容を提示して、次時の学習の流れが理解できるようにする。	時：一緒にあいさつをすることで学習の終わりを感ずることができるようになる。(⑤)	